「惟神の大道」

（昭和四十年　七月発行）

萬物発生の状況、一年四季の循環、これを精神的にうかがうならば、神の御意思の現われであることを知るのである。口を利（キ）かぬ萬物の世界ではあるが、これを観察すると、萬物が大声をあげて〝秩序は厳然である〟と宇宙の神の御意思をほめたたえて叫んでいることが伺われる。こういう表現をすれば、知識人は呵々大笑するであろうが、私にはその声が聴えるのである。萬物は時が来れば、皆一様に勢いをそろえて、花を咲かせて実を稔らせ、喜び勇んで活躍しているではないか。口を利かぬ萬物ではあるが、実行を以て叫んでいるのである。この故に萬物の生成は荘厳きわまりなしということになる。何一つ天意に逆っているものはないのである。

これに比べて人の在り方はどうであろうか。人は萬物の中の霊長とたたえられ、五尺の體には至大天球を一呑みに出来る精神力を與えられ、知能を授けられているにも拘わらず、神の御意思を覚ろうとする努力を払わず、天の使命を夢の如く考えて、天意に反することばかりを作り出している。精神的に歩むことを忘却しているのである。

私は声を大にして〝惟神の大道を進めよ〟と叫んでいる。惟神の大道とは神の御意思の通りの道を精神的に進むことにほかならぬ。人は惟神の大道に復帰して、神の世界に従うに限る。これは決して難かしいことではない。われわれをお造り下さった御祖（ミオヤ）の神に帰化して、神になりきる精神を養うことが第一歩である。一日も早くわれの精神の立替・立直しを断行しなければならない。世の中も人の世界でなくなり神の世界となり、人も神となる。この世を神の世と浄化して、過去の祖先の霊も救われ、現在のわれわれも救われる。さらに未来の子孫も救われ、繁栄することになる。精神は自然に実行に現われ、宇宙は栄え、人は完成するのである。